

守山まるごと活性化 議事要旨 作成者：守山会館 平井

会議名： まるごと活性化Aプロジェクト会議

日時： 平成28年2月21日(日) 午前10時00分から12時00分まで

場所： 守山会館

出席者： 伴野学区長、井上代表、和田副代表、奥村、竹村、小嶋、本城、杉本

出席者(行政)： 地域振興課 坪内課長、市民協働課 高田係長、生涯学習課 岡田係長
守山会館 田中館長、平井主事

議題

(1)行政等について (2)自治会ハンドブック
(3)わがまちミーティングについて

会議要旨

内容

(1) 行政等について

5つの項目の内、まずは配布物について、現状・課題の洗い出し、対応策について各自意見をいただいた。

【意見】

(本町)

- 各団体の配布日がバラバラで困っているという課題があるが、本町では自治会で決めた日程にしか配らないのでそこまで苦慮していない。
- 自治会員への文書の配布は、週1回(金曜日に文書内容を各班長に告知し自治会館へ取りに来てもらう。)
- 締切り間近の文書は、自治会長自ら配布している。
- 配布物が多いという課題は、文書が多少減ってもそこまで負担軽減になると思わないので、もっとわかりやすい文章にしてもらうほうが良い。
- 回覧文書を回すのに、5軒で約1週間かかる。一番多い班で最大2週間かかる。
- 各催しや申込の期限が終わってから回覧が届くことがあり、苦情が入ることがある。
- 回覧文書は、自治会用と全戸用の2パターンが必要。
(自治会員以外は、回覧が回らないため)
- 回覧文書はすべてめくらないとどんな内容の文書が入っているのかわからないため、インデックスなどで仕分けし、一目でかわるようにすることが大切。
- 文書が多いときは、一覧を付けてもらえるとわかりやすい。

(今宿)

- 一里塚と社協だよりの広報誌の全戸配布はやめてほしい。

(勝部)

- 回覧文書は、13軒で約1週間かかる。また一番多い班(35)は、回覧の順番の上下両方から回しており、約10日かかる。
- 回覧部数は200部で本町同様に文書の配布は決めた日にしか行っていない。
- 見てもらおうという工夫がない場合が多々ある。
(自治会長への依頼文書をそのまま回覧で回そうとするなど)
- 個人配布が多い。(学区まちづくり等)

(梅田町)

- 回覧文書は、特にマンションでは共働き世帯が多いこともあり、1日1軒しか回らない。また、組数が多いところは、上下両方から回している。
- 回るスピードが遅いため、事業が終わってから回覧が届くということが往々にある。
- たくさんの回覧文書があるため、重要なお知らせを回しても気付かず、見れていない方が多い。

(二町)

- 自治会担当の課を作してほしい。

内容

(和田副代表)

市の文書を一括管理している課は現在あるのか、また、一覧（インデックス等）を作成することは可能か？

(高田係長)

すべての自治会に文書を出す場合は、館長会議で図った上で市民協働課で取りまとめて各自治会長へ文書を出している。

なお、インデックスは今回資料提供している「自治会への依頼項目件数」と同じようなものであれば提供できる。

市が配達する文書は、市のみの文書で学校PTAや社協は含まれていない。

(井上代表)

- ・市から届く文書を配るのは義務なのか。
 - ・自治会担当課ができないのであれば、意見を聞いてもらえる場を設けてほしい。
- ※自治会サイドから本当に配布、回覧をする必要があるのかを精査する必要があるため

(高田係長)

- ・自治会交付金の中で文書配布の業務をお願いしているため、基本はすべて配っていただく必要がある。

(伴野学区長)

- ・回覧文書を回しても、実際見ている方は少ない。
- ・重要なものはできるだけ一番上に持ってきて回すように工夫している。
- ・広報で掲載し、さらに回覧で回している場合が多くある。

(高田係長)

- ・数年前に広報で掲載した文書は、回覧はしないという決まりにしたが、最近は徹底できていない部分がある。また、広報の紙面には限りがあり、掲載内容も最低限しか載せれないため、どうしても再度回覧で回している部分がある。
- ・ポスターについてもA3版で統一するようにした。

(2)自治会ハンドブック

自治会ハンドブックの目次（案）について井上代表より説明。

- ・今後は別の構成班で具体的な内容について検討し作成する。
（Aプロジェクトの正副および会館職員）
- ・決まった内容はその都度Aプロジェクトの会議で説明する。

(3)わがまちミーティングについて

概要について田中館長より説明。

- ・学区民を対象に無作為で抽出して1,000人の方に案内通知する。

決定事項

自治会ハンドブックを別班で議論していく。

次回以降について

「行政等」について引き続き課題・対応策について意見を出し合う。